BOSE®

OWNER'S MANUAL

バーチャル・シアター・サウンドシステム

LS-6

この度はLS-6をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

LS-6取扱説明書

目 次

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

ご使用になる前に　安全にご使用いただくためにこのページは必ずお読みください

設置上の注意

次のような場所には設置しないでください。性能の劣化、故障や感電事故の原因および火災の原因になります。

- ●直射日光の当たる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。
- ●潮風の直接当たるところ。
- ●風通しが悪く、ホコリの多い場所。
- ●振動や傾斜のある不安定な場所。
- ●石油化学製品（ビニール、ポリエステル、プラスチックなど）やゴム製品で巻いたり、被せたり、下に敷いたり直接触れないようにしてください。
- ●通常の生活環境と大きく異なる場所。

100V交流（AC）電源で

- ●この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対接続しないでください。故障や火災の原因になり、危険です。また、直流（DC）電源ではご使用になれません。
- ●この製品は国内専用仕様です。海外や電源電圧の違うところでは、ご使用になれません。ご使用になった場合感電事故の原因および火災の原因になりますのでご注意ください。
- ●電源は、コンピューターや、コンピューターを搭載している機器などのノイズ源となるものに供給しているACコンセントと共有しないでください。ノイズ源となるものに供給しているACコンセントからできるかぎり離れたACコンセントから供給するようにしてください。

電源コードについて

- ●コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分をもって抜いてください。
- ●濡れた手でプラグの抜き差しを行なうと感電する危険がありますので、絶対おやめください。
- ●電源コードの上に重いものを置いたり、ケーブルに傷を付けたりしますとコードが断線したりショートして火災の原因となる場合がありますのでコードをつぶしたり傷つけたりしないようにご注意ください。
- ●長期間ご使用にならないときは、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

ケースを開けないで

- ●ケースを開けますと、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。

内部に異物を落とさない

- ●内部に燃えやすいものや、ヘアピン、硬貨などの金属片などが入った場合、また、誤って水などの液体がかかった場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店又は当社にご相談ください。そのままでご使用になりますと火災や故 障および感電事故の原因になります。

シンナーなどで拭かないで

- ●製品は、ときどき柔らかい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますので絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

セットを移動するとき

- ●セットを移動するときは、接続しているコードや電源コードの断線やショートを防ぐため他の機器との接続コードを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いて動かしてください。

他の機器と接続するとき

- ●他の機器と接続するときは、各機器の電源がOFFになっていることを確認してください。また、セットのボリュームを絞ってから行なってください。

落雷に対する注意

- ●落雷などのおそれがあるときは、 コンセントから電源プラグを抜き取ってください。

無理な力は加えない

- ●スイッチやツマミには、無理な力を加えないでください。

音のエチケット

- ●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

スピーカーの防磁について

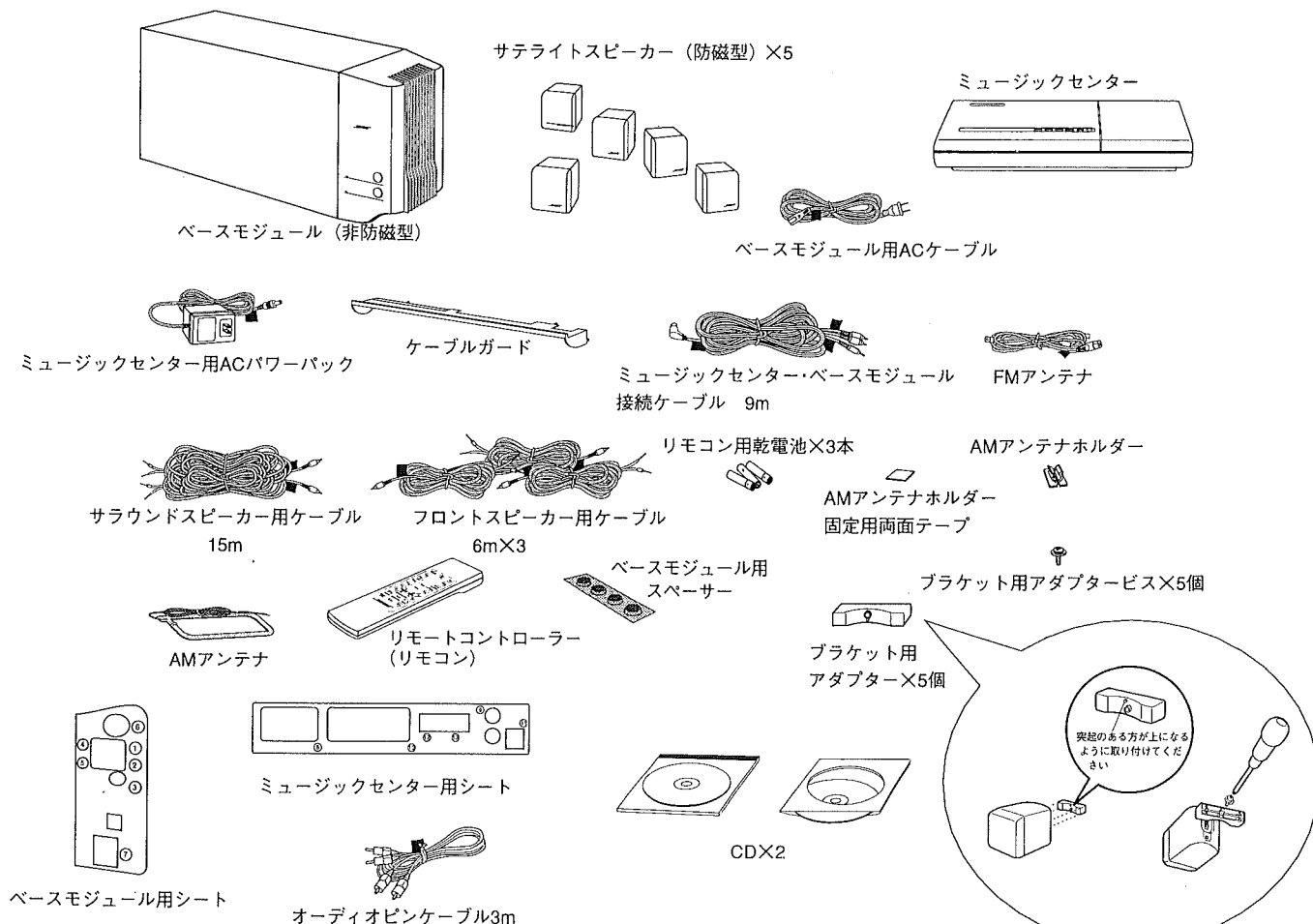
ベースモジュール内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

始めに

LS-6 システムは、ボーズ独自のVTSS技術によって難しい操作や調整を必要とせずに、お部屋のなかに臨場感溢れるサウンドを提供します。
LS-6 システムは、
・ AM/FMチューナー内蔵
. シングル（8cm）CD対応のCDプレーヤー
. ボーズの特許アクースティマス方式のアンプ内蔵ベースモジュール
. 5チャンネルすべてのスピーカーが完全同一性能のサテライトスピーカー
. RF（電波式）リモコン
で構成されています。
また、外部入力は、VIDEO SOUND、TAPE、AUXの3系統を装備しています。
LS-6 システムは、ステレオ（2スピーカー）モード、ステレオ+センター（3スピーカー）モード、サラウンド（5スピーカー）モードの3種類のスピーカーモードを備えています。ソフトがサラウンド録音されている場合はもちろん、通常のステレオ録音や、モノラル録音の場合でも好みに応じて、お好きなスピーカーモードでお楽しみいただけます。しかし、たとえソフトがサラウンド録音されているものであっても常に5個のスピーカー全てから音声が出力されるとは限りません。VTSS技術によって各スピーカーに最適な音が出力されるように設計されています。

開梱時のご注意

◆ 付属品を確認してください ◆

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

◆ LS-6システムの設置位置を選ぶ ◆

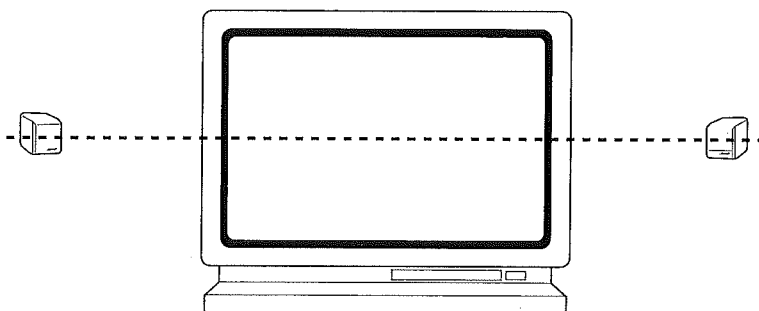
下記ガイドラインに従ってスピーカーを設置すると、反射音と直接音との組合せにより、映画館などで感じる迫力と臨場感が得られます。サテライトスピーカーの位置と向きをいろいろ試してみて、最も快いと感じる方向を探しながら設置してください。サラウンド用のスピーカーの向きは、どこから音が出ているのかがはっきりとは分からないように向きを調整してください。サウンド用のサテライトスピーカーはリスナーに直接向けないように設置する方がよい結果が得られます。スピーカーの音量バランスの調整および室内音響効果についてさらにお知りになりたい場合は「システムの音響調整」(P.28)をご参照ください。

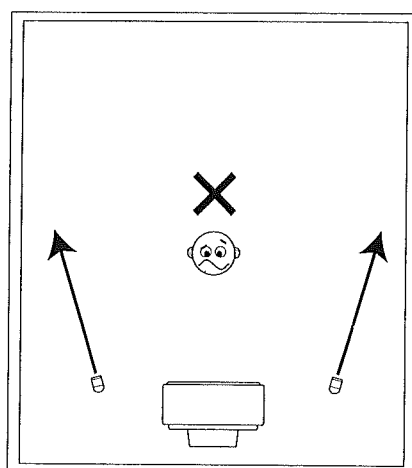
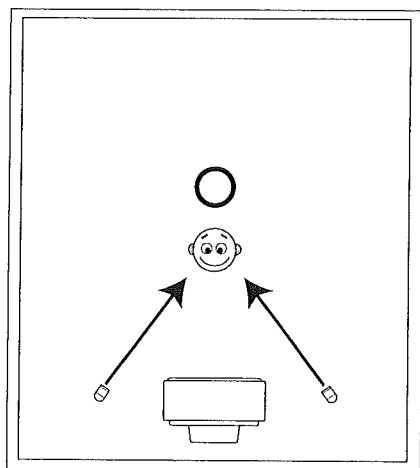
◆ スピーカーの設置位置 ◆

下記の手順に従って、ホームシアター効果が最大限に得られるLS-6システムの設置の仕方を選んでください。

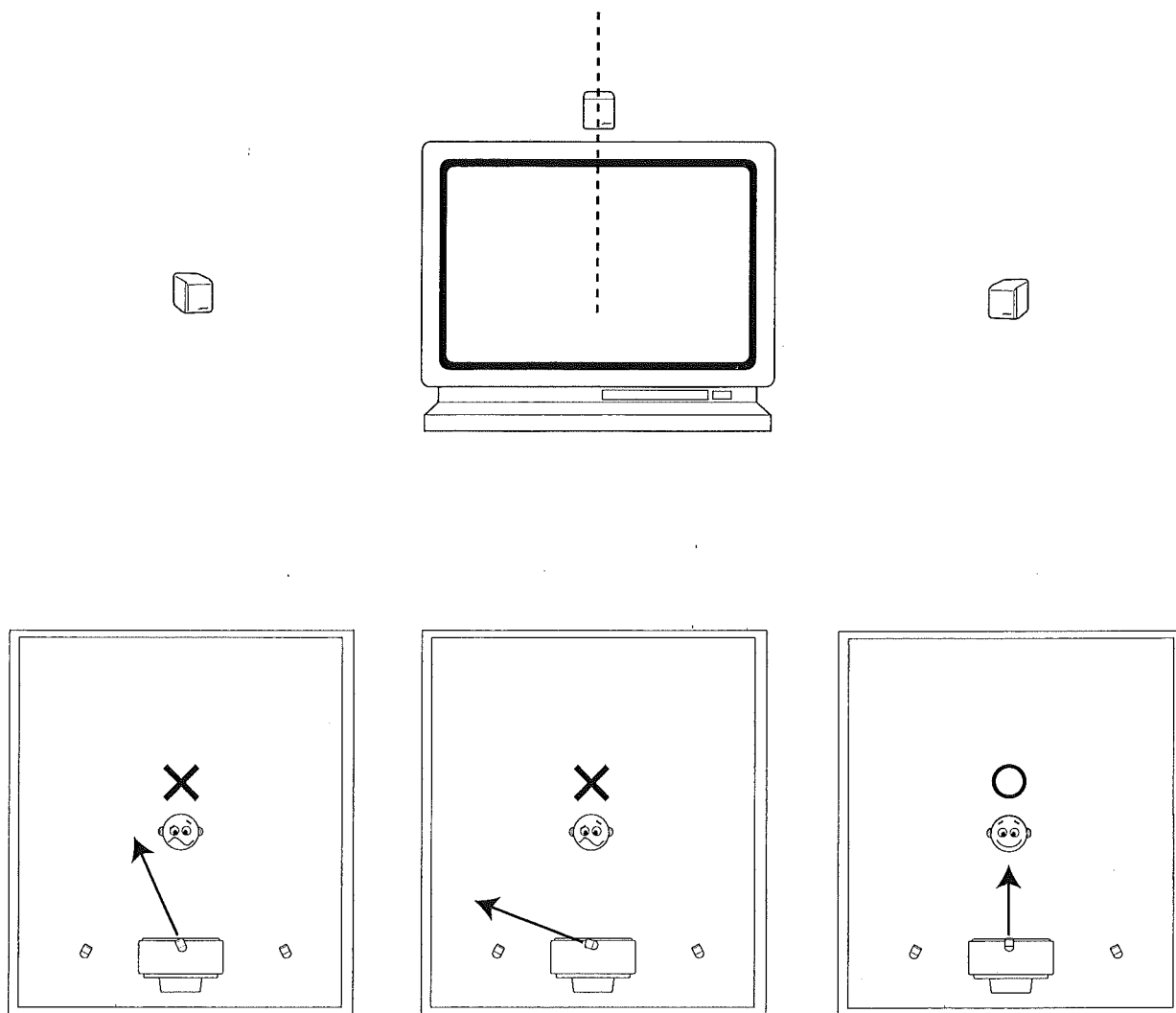
● 左右のフロントスピーカー

音の広がりの感じが視覚のイメージに近くなるように、左右のフロントスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。フロントスピーカー用のケーブルの長さは約6mありますので、ベースモジュールからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

1. テレビ画面の水平中心線と並ぶように設置します。
   ※サテライトスピーカーが画面から離れ過ぎないように距離は1m以内とすることをおすすめします。この距離は、室内条件や個人の好みによって変えてください。

2. サテライトスピーカーは、リスナーへ直接向くようにしてください。

注:サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型(キャンセリングマグネット方式)を採用しています。

● センタースピーカー

センタースピーカーから出る音声は、画面の中央から聞こえるように設置します。センタースピーカー用のケーブルの長さは約6mありますのでベースモジュールからの距離は、ケーブルの長さの範囲で設置してください。

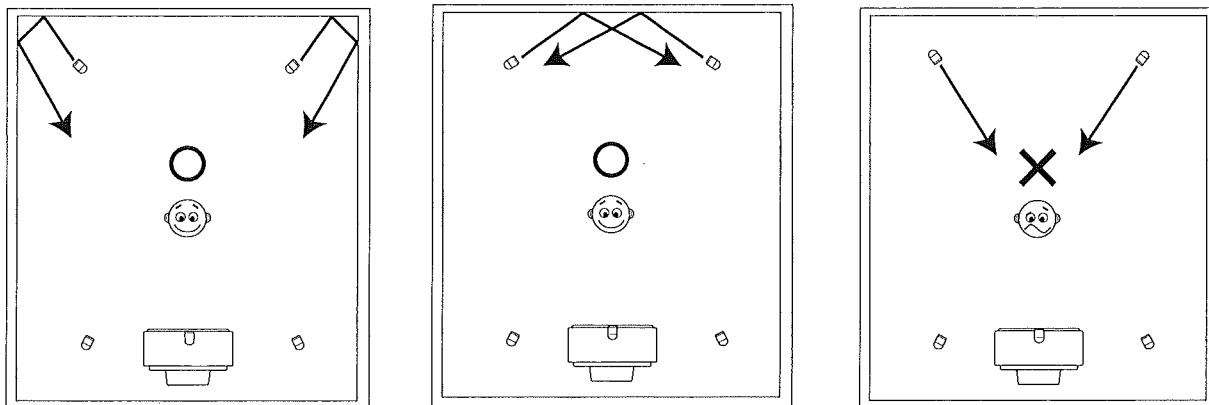
センタースピーカーは、画面の垂直中心線と並ぶように上部、あるいは下部（画面に近い方）に設置します。その時、サテライトスピーカーの前面が画面の最前端になるように設置します（テレビの背面の壁に近接しないようにしてください）。

注:スピーカーを書棚などの家具に置く場合には、必ず各々のスピーカーを書棚の前面部に設置してください。周囲を取り囲まれた空間にスピーカーを設置しますと、音質が変化します。書棚に本などを入れる場合、その量によって音質が変化しますのでご注意ください。

● サラウンドスピーカー

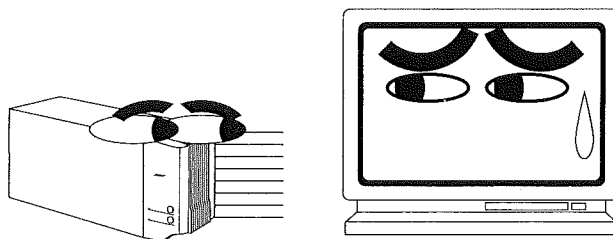
サラウンド（リア）スピーカーは、なるべく、室内の半分よりうしろに設置してください。音源の正確な位置がはっきりわからないようにサテライトスピーカーの向きを調整してください。サラウンドスピーカー用のケーブルは約15mありますので、ベースモジュールからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

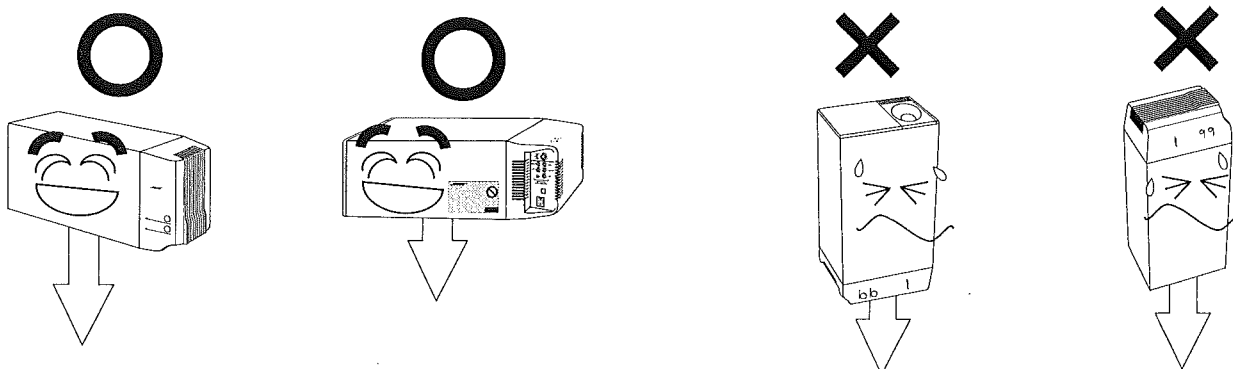
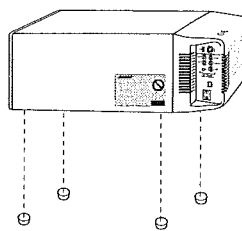
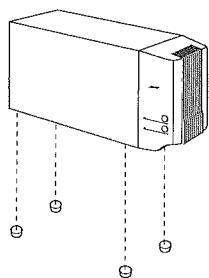
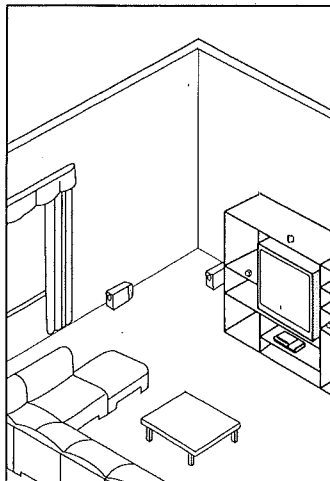
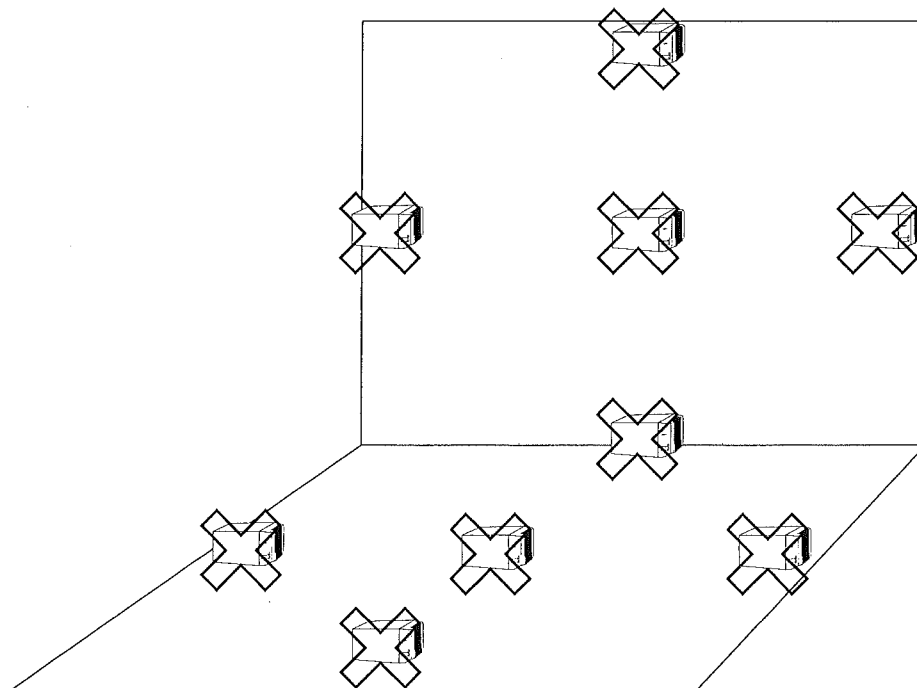
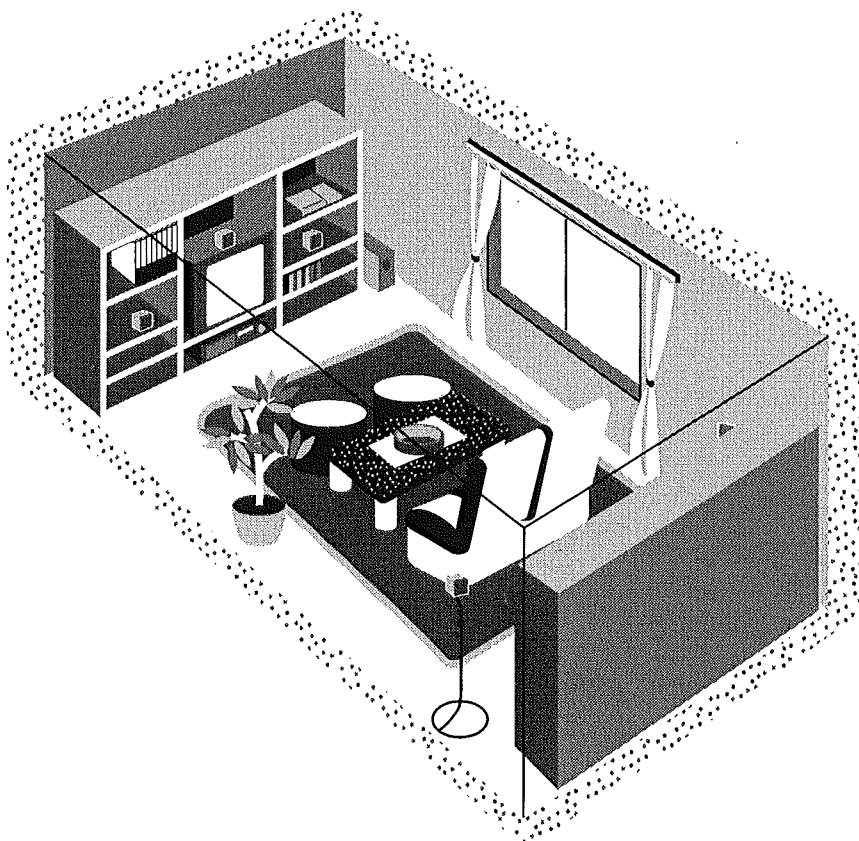
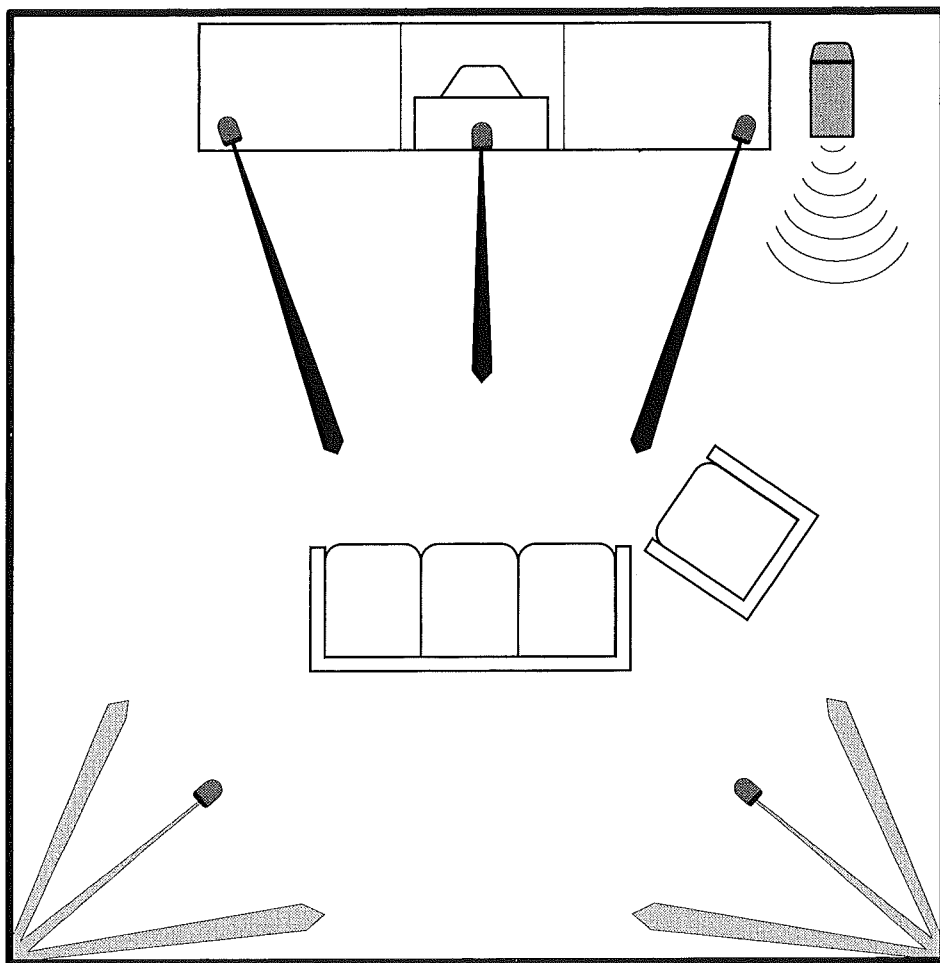
1.可能な場合には、耳の高さより高い位置にスピーカーを設置します。

2.スピーカーからの音声が壁、床あるいは天井に反射するようにサテライトスピーカーの向きを決めます。スピーカーからリスナーまでの距離が遠いほど、いい結果が得られます。

注:サラウンド用スピーカーからの音声は、リスナーに直接向けないようにしてください。

◆ ベースモジュール ◆

下記の手順に従って、ベースモジュールの設置位置を選んでください。

注：ベースモジュール内部のスピーカーは防磁されていません。テレビ画面への干渉を避けるために、ベースモジュールはテレビから少なくとも1m以上離してください。

1.フロントスピーカーを設置した部屋の端に近い壁か、テレビのうしろの壁にベースモジュールを設置します。その際、ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブル、スピーカーケーブルおよび、ACコンセントが届くことを確認してください。また、ベースモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがベースモジュールの換気開口部を塞がないように十分気を付けてください。
2.ベースモジュールの置き方を決めます。ベースモジュールには、アンプが内蔵されていますので、適性なアンプの冷却を行うために、コネクター部を下にして設置するか、ルームアコースチックコンペンセーターつまみを上にして設置してください。

注:側面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してベースモジュールのスリットの部分を塞がないでください。

3.ベースモジュールの置き方が決まったら、底面の4隅の付近に付属のスペーサーを貼り付けてください。ベースモジュールの安定が良くなり、傷などが付きにくくなります。

4.ポート（丸い開口部）が塞がったり低音が出過ぎないように、ポートを室内、あるいは壁に沿うように向けます。

5.ベースモジュールは、壁と壁の中央や、天井と床の中間の高さにならないように設置してください。低音に対して悪い影響が出る場合があります。

◆ LS-6の設置例◆

⚠ **注意**　スピーカは、水平で安定した表面を選んで設置して下さい。

◆ ミュージックセンター ◆

●ミュージックセンターの位置を選びます。

1. CDプレーヤーのカバーが開けられるだけの十分な空間を空けます。
2. 付属のオーディオピンケーブルの長さを考慮して、ミュージックセンターを音源（LDプレーヤー、ビデオデッキなど）に十分近接して設置します。また、電磁ノイズの影響を避けるため、テレビからはできるだけ遠ざけてください。
3. ベースモジュールからの距離が約9m（ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルの長さ）の範囲に、ミュージックセンターを設置します。

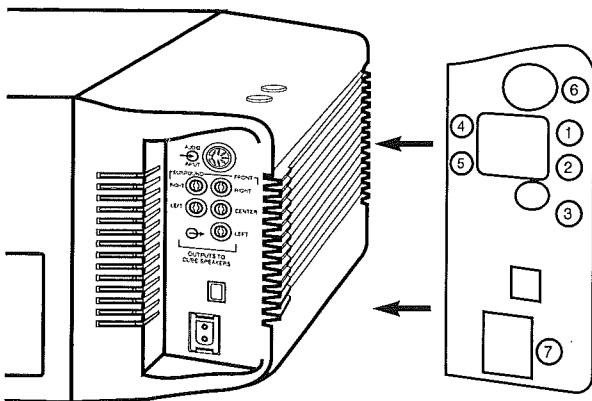
※付属のオーディオピンケーブルの長さが合わない場合や、さらに必要な場合は、市販のオーディオピンケーブルを別途ご用意ください。

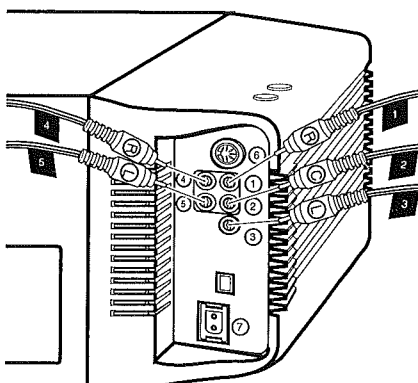
注意 ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルは、リモコンのアンテナになっています。ケーブルをまるめたり、束ねたりしないで必ず延ばしてご使用ください。また、ケーブルは電磁波などの雑音の影響を避けるためテレビから1m以上離して設置してください。リモコンの効きが悪い場合はケーブルを動かしてみて感度が上がるように設置し直してください。

ベースモジュールとスピーカーを接続する

ベースモジュールの設置位置が決まったら、サテライトスピーカーの接続を行います

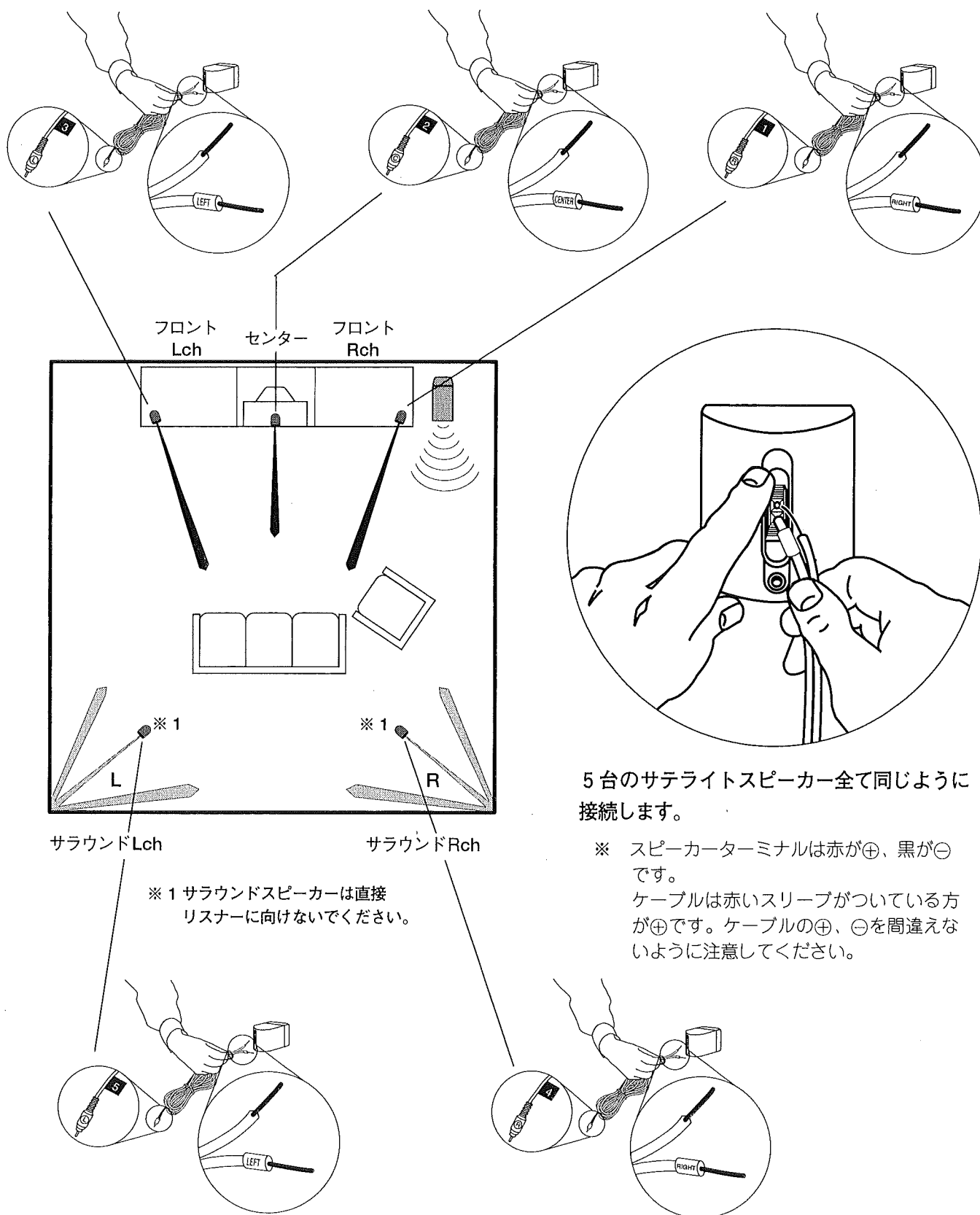
1.　ベースモジュールとスピーカーケーブルを接続します。

a ベースモジュールの入力部分に付属のシートを貼ります。

シート裏面のはくり紙をはがし、位置を合わせて貼ってください。

b シートの番号と同じ番号のスピーカーケーブルのプラグを確実にベースモジュールのジャックに差し込みます。

※
①‐フロント右側スピーカー用
②‐フロント中央スピーカー用
③‐フロント左側スピーカー用
④‐サラウンド右側スピーカー用
⑤‐サラウンド左側スピーカー用

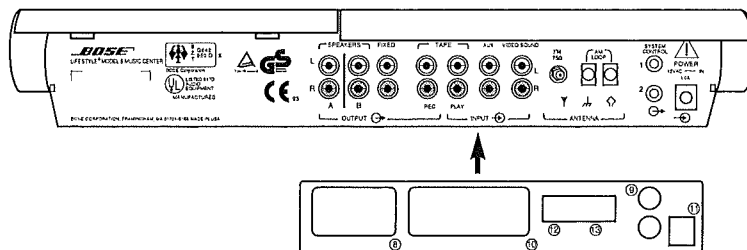
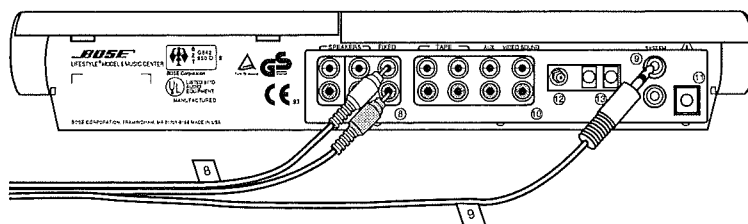
2. スピーカーケーブルとサテライトスピーカーを接続します。

5台のサテライトスピーカー全て同じように接続します。

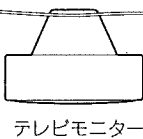
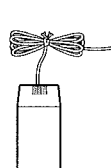
※ スピーカーターミナルは赤が⊕、黒が⊖です。
ケーブルは赤いスリーブがついている方が⊕です。ケーブルの⊕、⊖を間違えないように注意してください。

青 い プ ラ グ　番 号 ①, RIGHTのケーブルはフロント右側スピーカーにつないでください。
青 い プ ラ グ　番 号 ②, CENTERのケーブルはフロント中央スピーカーにつないでください。
青 い プ ラ グ　番 号 ③, LEFTのケーブルはフロント左側スピーカーにつないでください。
オレンジのプラグ 番号④, RIGHTのケーブルはサラウンド右側スピーカーにつないでください。
オレンジのプラグ 番号⑤, LEFTのケーブルはサラウンド左側スピーカーにつないでください。

3. ミュージックセンターとベースモジュールの接続

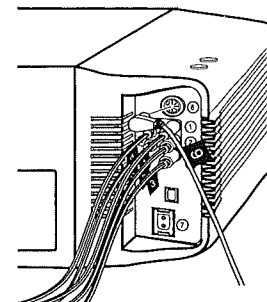
シートの番号に合わせてミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルの各プラグをそれぞれのジャックに確実に差し込んでください。

a ミュージックセンターの背面に付属のシートを貼ります。

b シートの番号と同じ番号のケーブルのプラグを確実に奥まで差し込んでください。

> ⚠ **注意** ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルは、必ずFIXEDに接続してください。SPEAKERS A,B に接続しますと音が歪んでしまったり音量の上下がうまく働かなくなります。

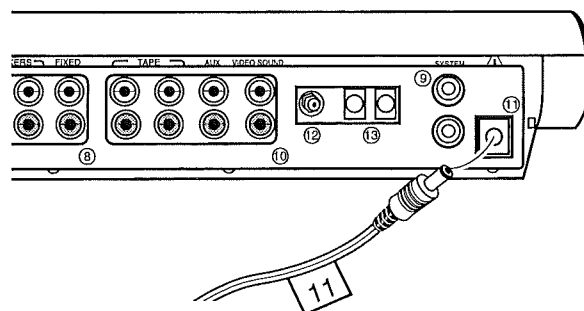
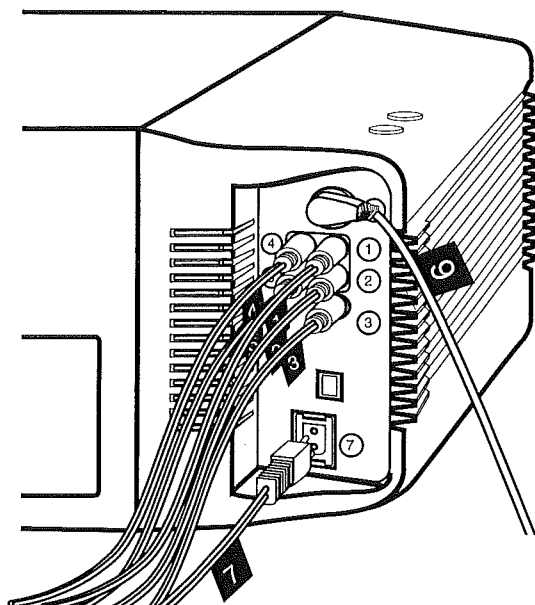
※　⑧音声信号用オーディオピンケーブル。白がLEFT（左）、赤がRIGHT（右）
　　⑨ベースモジュールコントロール信号ケーブル

> ⚠ **注意** 1.テレビモニターの背面部（ネック部）は高圧発生部があるため、信号ケーブル（ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブル）は近づけないでください。
> 2.接続ケーブルはなるべく伸ばして接続してください。
> 3.ケーブルがあまってしまった場合は、ベースモジュール側で束ねるようにしてください。

4. ベースモジュールへケーブルを接続します。

DINコネクター（8ピン）を向きに注意して奥までしっかり差し込みます。

※　⑥ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルのDinコネクター

> ⚠ **注意** ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルは、リモコンのアンテナになっています。ケーブルをまるめたり、束ねたりしないで必ず延ばしてご使用ください。また、ケーブルは電磁波などの雑音の影響を避けるためテレビから1m以上離して設置してください。リモコンの効きが悪い場合はケーブルを動かしてみて感度が上がるように設置し直してください。

5. 電源ケーブル、ACパワーパックの接続

> ⚠ **注意** すべての結線が終わるまでコンセントに差し込まないでください。

※ ⑦ベースモジュール用AC電源ケーブル
⑪ミュージックセンター用ACパワーパックからのケーブル

外部の機器をLS-6に接続する

◆サラウンド効果を楽しむために◆

LS-6 システムを使ってサラウンド効果を楽しむには、音源となるソフトがステレオあるいはサラウンド録音されていなければなりません。さらに、ソフトを再生する装置もステレオ方式でなければなりません。音源となるソフト（ビデオテープ・LD・CDなど）にサラウンド、ドルビーサラウンド、あるいは、 DOLBY SURROUND と記載されているか確認してください。又、テレビ放送や衛星放送の番組の中にはサラウンドでお楽しみいただけるものもあります。またサラウンド録音されたビデオテープからステレオあるいはサラウンドの音声を聴くには、ステレオ（HiFi）ビデオデッキが必要です。ビデオデッキは全てがステレオ方式ではありませんので、今お使いのビデオデッキがステレオ方式かどうか確認してください。モノラル方式の場合はステレオあるいはサラウンドでお楽しみいただけません。

注：ほとんどのビデオデッキあるいはLDプレイヤーからの音声出力レベルは固定されています。お使いのビデオデッキ、LDプレイヤーなどの出力端子が、固定と可変の選択ができたり切り換えられるものならば、固定出力の方をご使用ください。

※“ドルビー”という語およびダブルD記号はドルビー研究所の登録商標です。

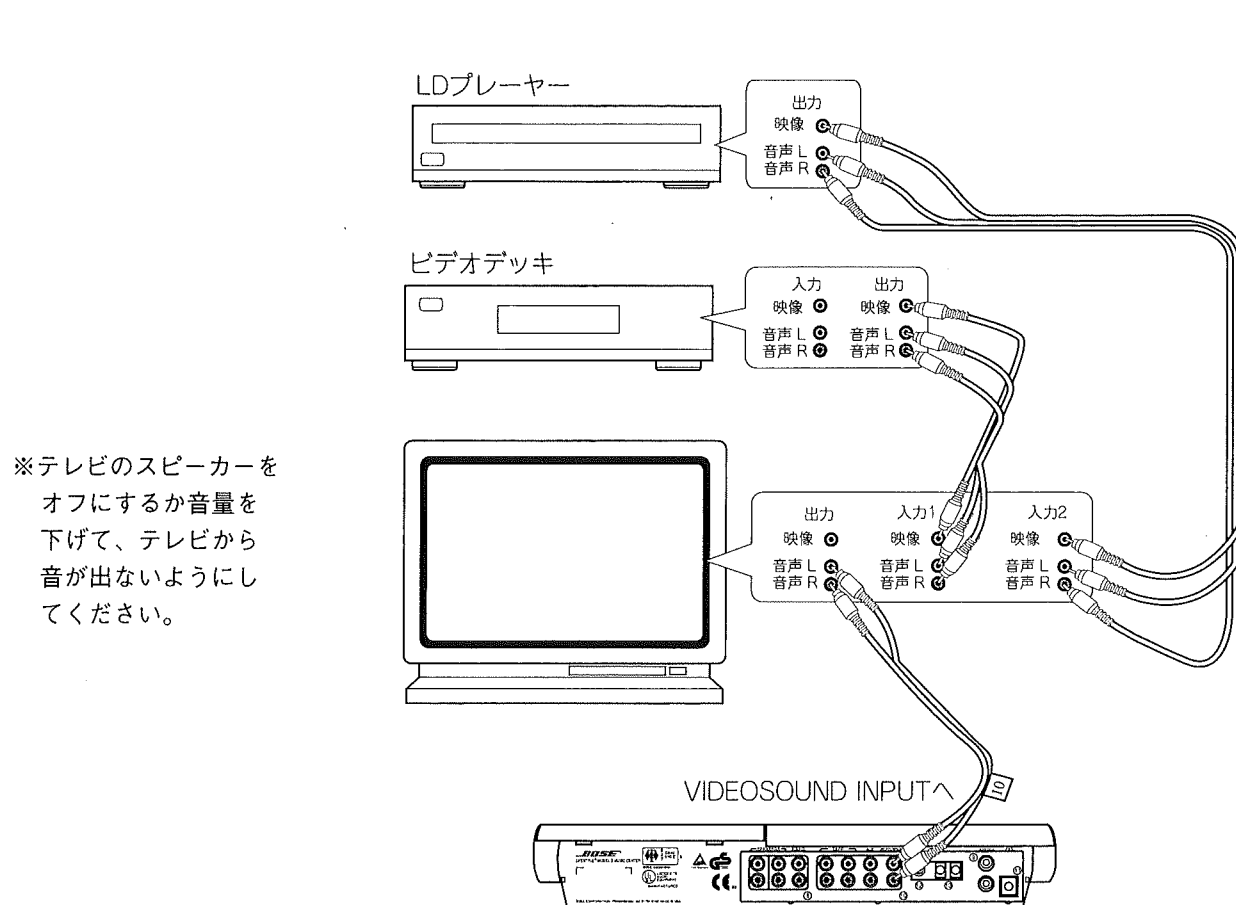
> ⚠ **注意** ビデオデッキには、音声がモノラル方式のものと、ステレオ方式のものがあります。モノラル方式のビデオデッキをご使用の場合、どのスピーカーモードでもサラウンドスピーカーから音声はでません。また、モノラルで録音されていたり、二か国語録音の場合サラウンドスピーカーから正しい音声が再生されませんのでご注意ください。

◆ 外部の機器の接続のしかた ◆

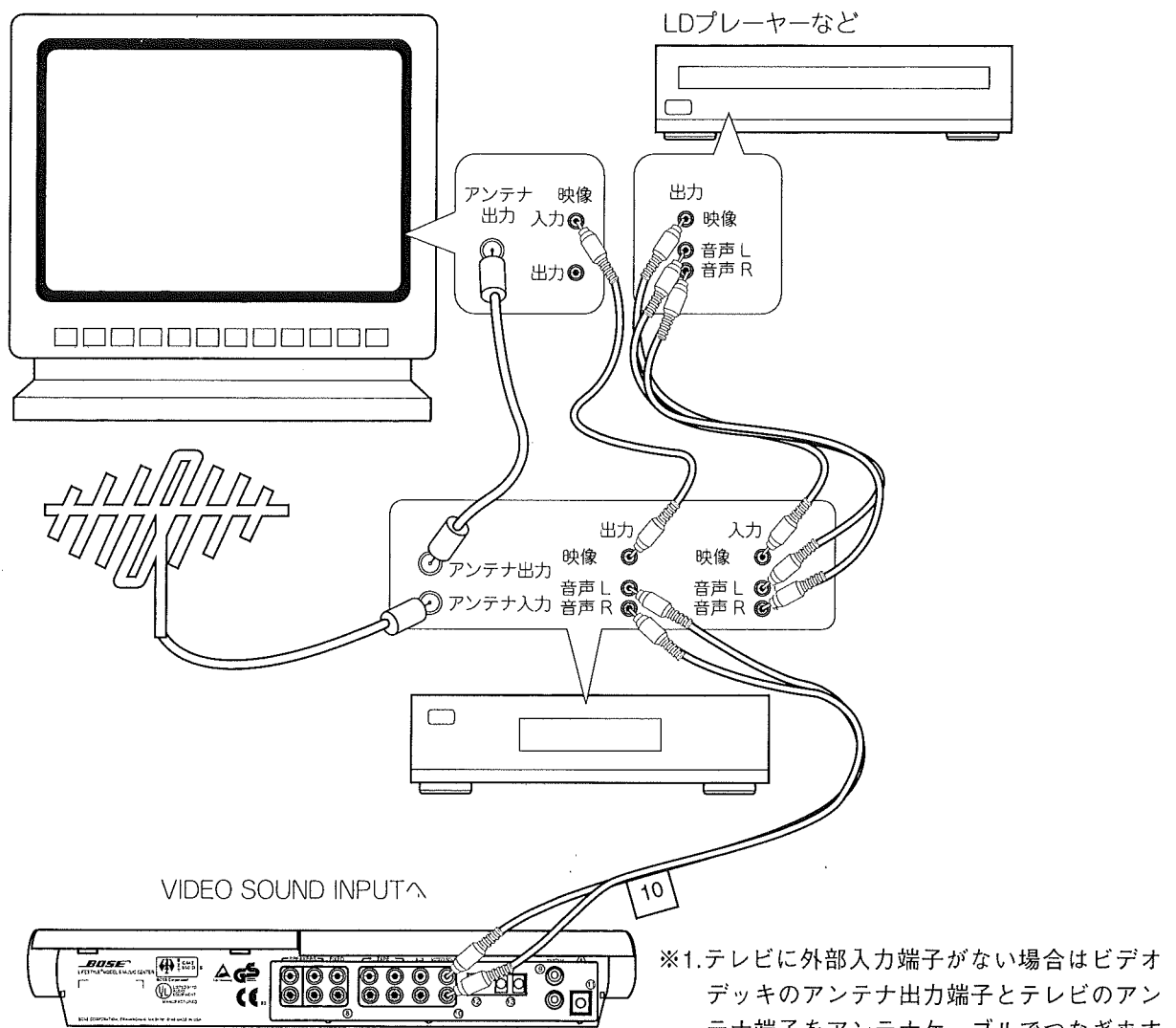
各機器の基本的な接続方法は 3 通りあります。
(1) 音源の切り換え用（セレクター）としてステレオテレビを使う方法。
(2) セレクターとしてステレオビデオデッキを使う方法。
(3) LS-6システムのミュージックセンターに各機器を直接接続して、ミュージックセンターで音源を切り換える方法です。※LS-6システムのミュージックセンターには映像信号の入力端子はありません。音声信号のみを接続してください。

(1) 外部の機器をテレビに接続してからミュージックセンターに接続する方法

テレビがステレオ方式で固定音声出力を持っていて、この出力端子に選んだ信号源（ビデオデッキ、LDプレーヤー、衛生放送）の音声が出力される場合

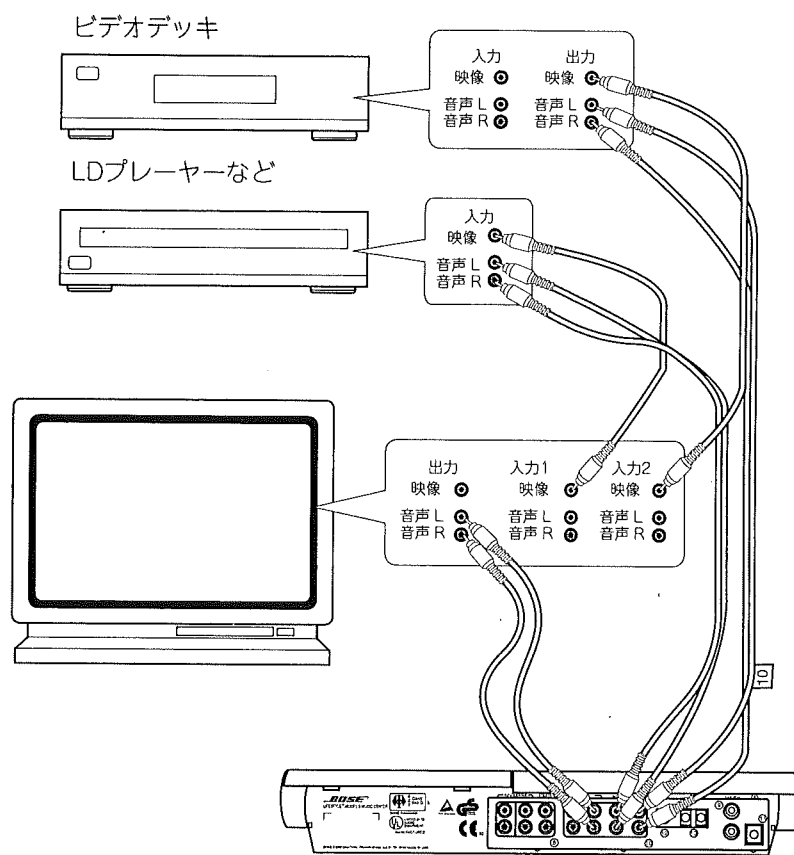
※テレビのスピーカーをオフにするか音量を下げて、テレビから音が出ないようにしてください。

※外部の機器についての詳しいことはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

(2)外部の機器をビデオデッキを通して接続する方法

お使いのテレビがステレオ方式ではないなら、あるいは適切な音声出力端子が装備されていないなら、ステレオ方式のビデオデッキの音声出力端子をミュージックセンターに直接接続してください。ビデオデッキをセレクターとして使って、他の機器を選びます。

※1.テレビに外部入力端子がない場合はビデオデッキのアンテナ出力端子とテレビのアンテナ端子をアンテナケーブルでつなぎます。詳しい事はビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

※この接続でご使用になる場合、テレビは映像を写すだけの機器として使用します。テレビ番組をご覧になるときはビデオデッキでテレビの番組を受信して、テレビは「ビデオ」または「外部」を選んでください。ビデオデッキとテレビをアンテナケーブルを使って接続している場合はテレビのチャンネルを1または2に合わせてください。

(3)外部の機器を直接ミュージックセンターに接続する方法

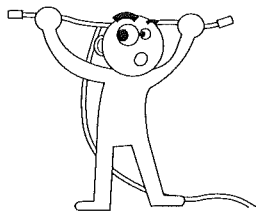
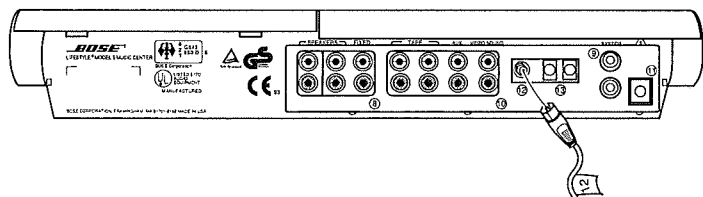
音源を選択するのにテレビあるいはビデオデッキを使えない、あるいは使いたくない場合は、音源をミュージックセンターに直接接続します。

※ミュージックセンターは映像用の入力端子は装備していません。映像信号はテレビに直接接続してください。

注：入力端子の名称（TAPE,AUX,VIDEO SOUNDO）は、あくまでも目安です。どの入力端子にどの外部の機器を接続しなければいけないという決まりはありません。上記の接続は、一例ですので、使い方によってご自由に入力端子をお選びください。ただし、入力端子選択時のスピーカーモードが異なっていますので、ご注意ください。入力端子のVIDEOを選ぶと、SURROUNNDO（5スピーカー）モードが自動的に選択されます。AUXあるいはTAPEを選ぶと、STEREO（2スピーカー）モードが自動的に選択されます。スピーカーモードはリモコンの STEREO+CENTER（3スピーカーモード）あるいはSURROUND SURROUND（5スピーカーモード）キーを押すことによってSTEREO+CENTER（3スピーカーモード）あるいはSURROUND（5スピーカーモード）に自由に切り換えることができます。

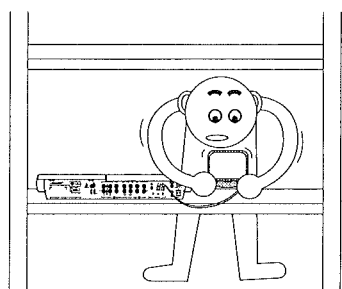
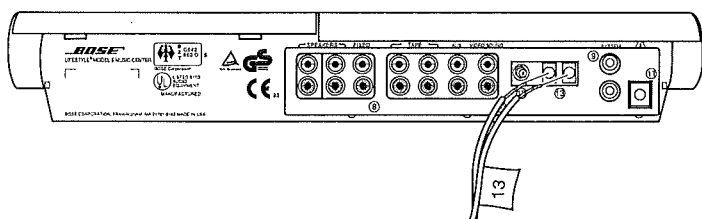
(4)レコードプレーヤーの接続について

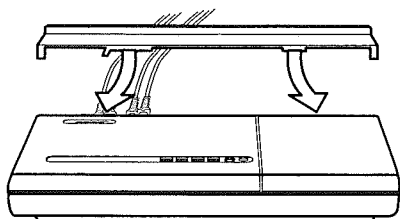
LS-6システムのミュージックセンターにはフォノイコライザーは装備されておりませんので、レコードプレーヤー内部にフォノイコライザーが装備されているもの以外は直接ミュージックセンターに接続できません。詳しいことはレコードプレーヤーの取扱説明書をお読みになるか、販売店にご相談ください。

アンテナを接続する

◆ FMアンテナ接続 ◆

1. ミュージックシステムの背面⑫のジャックに⑫の番号の付いているプラグを確実に差し込みます。

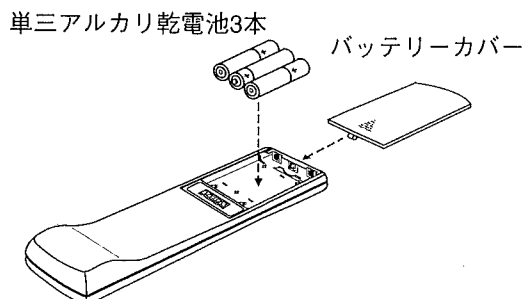
2. アンテナアームを広げます。このアンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の設置場所をさがしてください。

◆ AMアンテナ接続 ◆

1. ミュージックセンター背面の⑬端子に⑬の番号が付いているアンテナコードを接続します。その際コードの色と端子の色（黒は黒、白は白に）を合わせてください。
2. アンテナはミュージックセンターから45cm以上離して設置するようにしてください。
3. ループの向きをいろいろ試して感度がよくなるところを探してください。
4. 付属のホルダーに両面テープをはり、アンテナを固定します。

ケーブルガードを付ける

接続がすべて完了したら接続してあるケーブルやジャックが見えなくなるようにケーブルガードをミュージックセンターに取付けます。ケーブルガードの5個のツメは、ミュージックセンターの背面パネルの切り欠きにカチッとはまります。

リモートコントローラーに電池を入れます

リモートコントローラー（リモコン）を使用してもミュージックセンター側が反応しなくなったり、リモコンの信号の届く範囲が低減したように思われる時点で、電池を取り換えてください。交換用電池には、アルカリ乾電池を使用することを推奨します。

◆電池の入れ方◆

1. リモコンの背面のバッテリカバーをはずします。
2. 単三乾電池を3本、図のように入れます。電池の⊕／⊖と、電池ボックス内側のイラストと同じように、向きを間違えないように注意してください。
3. バッテリーカバーを滑らせるように元の位置に戻します。

※付属の乾電池は、動作チェック用です。ご使用の前に必ず新しい乾電池をご用意ください。安定動作のために、アルカリ乾電池を使用することをお薦めいたします。

注：小型スイッチは工場で設定してあります。必要な場合以外は設定を変えないでください。

 注意 電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕と⊖の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

 注意 長時間（1ヶ月以上）使用しないときは、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けがが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし、液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

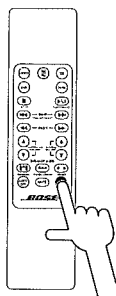
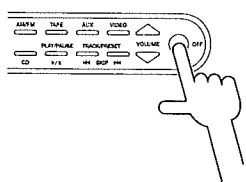
 注意 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより火災、けがの原因となることがあります。

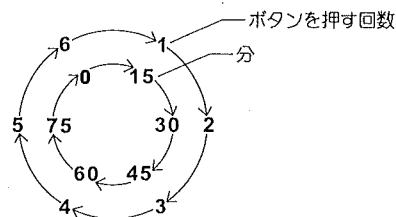
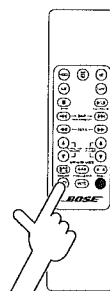
電源の入れ方

電源はミュージックセンターあるいはリモコンのAM/FM、TAPE、AUX、VIDEO、CDキーを押すことで入れられます。

注：接続に間違いがないことを確認してからACコンセントにプラグ、ACパワーパックを差し込んでください。

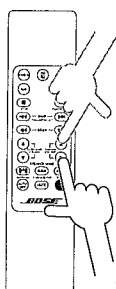
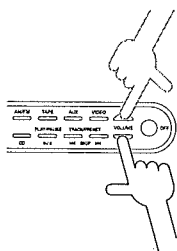
電源の切り方

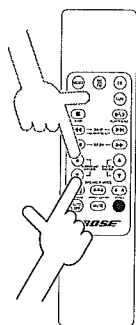
すぐに電源を切る場合

ミュージックセンターのOFFキーあるいはリモコンのOFFキーを押します。

一定時間後電源を切る場合

リモコンのAUTO OFFキーを押します。

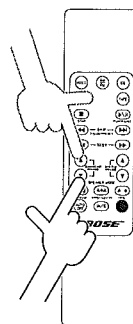
音量調節のしかた

● 全体の音量調節のしかた

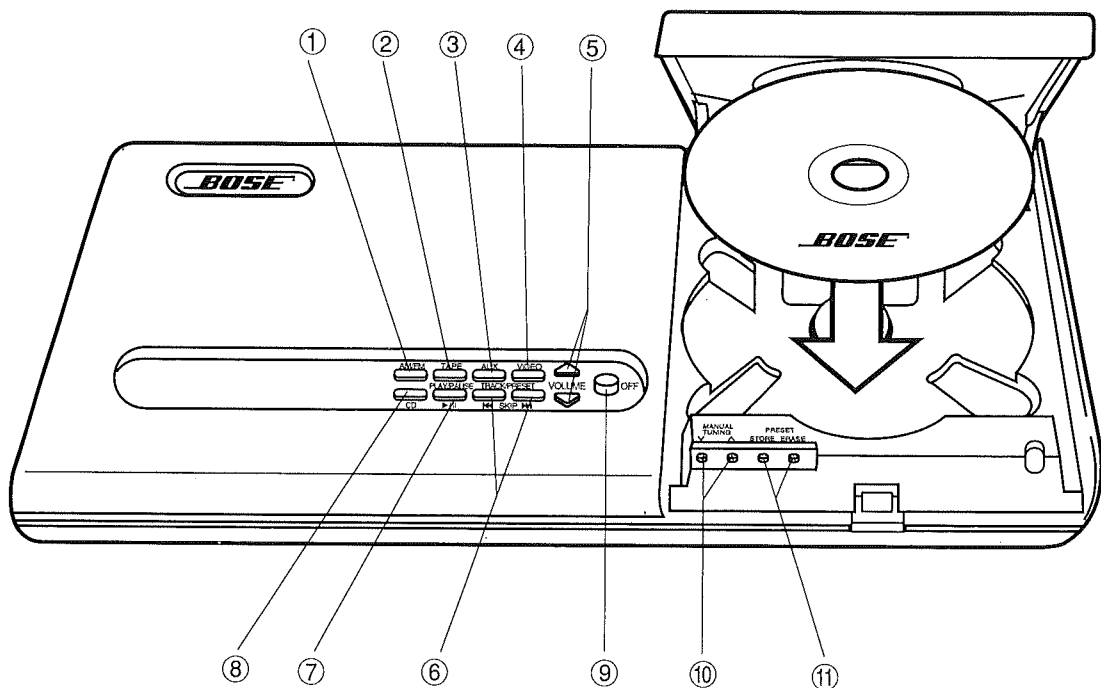
▲または ⊙ キーを押すと音量が上がり、
▼または ⊙ キーを押すと音量が下がります。

ミュージックセンターあるいはリモコンのVOLUME（ボリューム）キーあるいはSYSTEM VOLUM（システムボリューム）キーを使って音量を調節します。

● SURROUND（5スピーカー）モードの場合のサラウンドスピーカーの音量調節のしかた

サラウンドスピーカーの音量はリモコンのSURROUND VOLUME（サラウンドボリューム）キーを使って音量の調節をします。

※フロントセンタースピーカーだけの音量調節はできません。

● STEREO＋CENTER（３スピーカー）モードの場合のセンタースピーカーの音量調節のしかた

リモコンのSURROUND VOLUME（サラウンドボリューム）キーを使ってセンタースピーカーからの音声を調節します。

キーの内容について

●ミュージックセンター部

①ラジオを選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。ラジオがついている場合に、AMとFMの切り換えを行ます。

②TAPE入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。

③AUX入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。

④VIDEO SOUND入力端子に接続されている音源を選び、システムの電源を入れます（SURROUNDスピーカーモード）。

⑤システム全体の音量の上げ下げを行ないます。

⑥CDにおいて前あるいは次の曲、または、ラジオにおいて前あるいは次の登録されている放送局を選びます。同時に押すと、CDの全曲を順不同に演奏します（ランダム演奏）。

⑦CDあるいはラジオの演奏を開始、あるいは一時停止させます。CDの場合は、2秒以上押し続けると停止します。

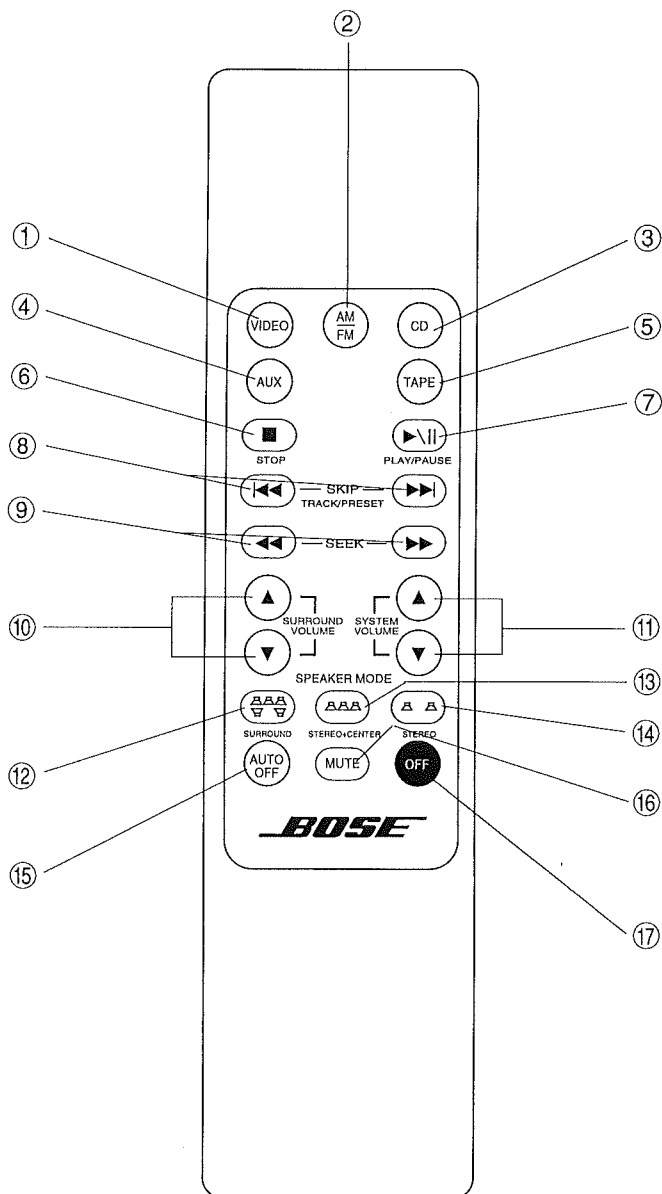
⑧内蔵CDプレイヤーを選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。CDの1曲目から演奏が始まります。

⑨電源を切ります。

⑩手動でラジオの周波数を上下させ、選局を行います。
このキーはミュージックセンターにしかありません。

⑪ラジオ放送局の登録、削除を行います。
このキーはミュージックセンターにしかありません。

キーの内容について

●リモートコントローラー（リモコン）部

このリモコンは、RF（電波式）ですので、リモコンを、ミュージックセンターに向ける必要はありません。
スピーカーモード（2台、3台あるいは5台のスピーカー）を選択したり、サラウンド（リヤ）の音量およびセンタースピーカーの音量を調節するキーは、リモコンにしかありません。

①VIDEO SOUND入力端子に接続されている音源を選び、システムの電源を入れます（SURROUNDスピーカーモード）。

②ラジオを選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。ラジオがついている場合に、AMとFMの切り換えを行います。

③内蔵CDプレイヤーを選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。CDの1曲目から演奏が始まります。

④AUX入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。

⑤TAPE入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます（STEREOスピーカーモード）。

⑥※CDの再生を停止します。

⑦CDあるいはラジオの演奏を開始、あるいは一時停止させます。CDの場合は、2秒以上押し続けると停止します。

⑧CDにおいて前あるいは次の曲、または、ラジオにおいて前あるいは次の登録されている放送局を選びます。同時に押すと、CDの全曲を順不同に演奏します（ランダム演奏）。

⑨※CD再生の場合は、前後にサーチを行います。ラジオの場合は、次の電波の強いAM/FM放送局を自動的にさがします。

⑩※5スピーカーモードの場合は、サラウンドスピーカーの音量の上げ下げを行います。
3スピーカーモードの場合は、センタースピーカーの音量の上げ下げを行います。
又、2スピーカーモード時にこのキーを押すと5スピーカーモードに切り変わります。

⑪システム全体の音量の上げ下げを行ないます。

⑫※SURROUND（5スピーカー）モードに切り換えます。

⑬※STEREO+CENTER（3スピーカー）モードに切り換えます。

⑭※STEREO（2スピーカー）モードに切り換えます。

⑮※一定時間後に電源を切ります（スリープ機能）このキーを押す度に停止までの時間が15分間ずつ増えます（最高で75分間）。

⑯※スピーカーの音を一時的に消します。もう一度このキーを押すと戻ります。

⑰電源を切ります。

※：このキーはリモコンにしかありません。

スピーカーモードについて

LS-6システムの場合、2台、3台、あるいは 5台のスピーカーモードで自由に音楽を聴くことができます。VIDEOを選択した場合、システムは、自動的にSURROUND（5スピーカー）モードで演奏を始め、AM/FM、CD、TAPE、あるいはAUXの場合にはSTEREO（2スピーカー）モードで電源が入ります。電源が入っていれば、音源のタイプに合わせてお好きなスピーカーモードに切り換えてお楽しみいただけます。

音源がサラウンド録音されていてもいなくても、SURROUNDモードで聴くことができます。また、サラウンドモードだからといって、常に5台のスピーカーすべてから音声が聞こえるとは限りません。サラウンド録音された音源の場合でも、音声がまったくサラウンドスピーカーに送られないこともあります。たいていの音源（モノ、ステレオ、あるいはサラウンド）の、3 あるいは 5スピーカーモードで聴くと、包み込まれるような音場でいながら、対話などのせりふを映像の中央に定位させることができます（12ページ「サラウンド効果を楽しむために」参照）。

注意 ビデオデッキには、音声がモノラル方式のものと、ステレオ方式のものがあります。モノラル方式のビデオデッキをご使用の場合、どのスピーカーモードでもサラウンドスピーカーから音声はでません。また、モノラルで録音されていたり、二か国語録音の場合サラウンドスピーカーから正しい音声が再生されませんのでご注意ください。

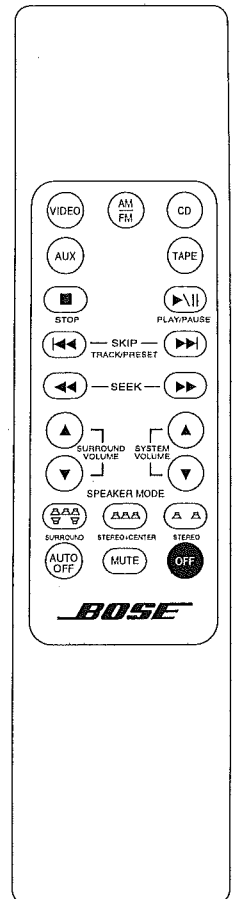
◆スピーカーモードの切り換え方◆

SURROUND（5スピーカー）、STEREO+CENTER（3スピーカー）、あるいはSTEREO（2スピーカー）の各モードはリモコンで切り換えます。
※ミュージックセンターではスピーカーのモード切り換えはできません。

- VIDEOキーを押すと、システムは自動的にSURROUND（5スピーカー）モードになります。
- VIDEO以外の音源（AM/FM、CD、AUX、TAPE）の場合には、システムはSTEREO（2スピーカー）モードになります。
- 演奏中は、どのスピーカーモード（SURROUND、STEREO+CENTER、STEREO）にも変えることができます。

●SURROUND VOLUME（サラウンドの音量）について

SURROUND VOLUME キーは
- SURROUND（5スピーカー）モードでは、サラウンドスピーカーの音量を上下させます。
- STEREO+CENTER（3スピーカー）モードでは、センタースピーカーの音量を上下させます。

- SURROUNDモードを選ぶ度に、サラウンドスピーカーの音量が最後に使用したレベルに戻ります。STEREO+CENTERモードを選ぶと、センタースピーカーの音量が最後に使用したレベルに戻ります。
- SURROUNDでサラウンド側の音量、あるいはSTEREO+CENTERで、センタースピーカーの音量を初期設定値にもどすには、SURROUND あるいはSTEREO+CENTER キーを10秒間押し続けます。
- STEREO（2スピーカー）モードの時に、SURROUND VOLUME （上下どちらでも）キーを押すと、SURROUND（5スピーカー）モードに自動的に変わります。

コンパクトディスクを聴いてみましょう

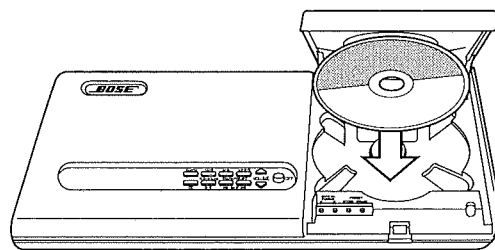
◆ 結露現象について ◆

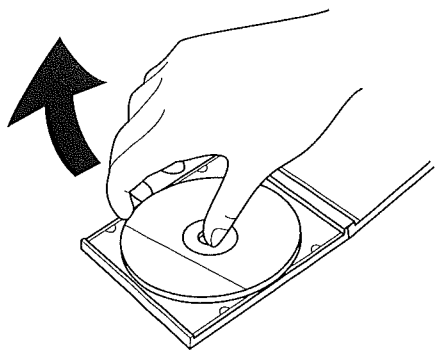
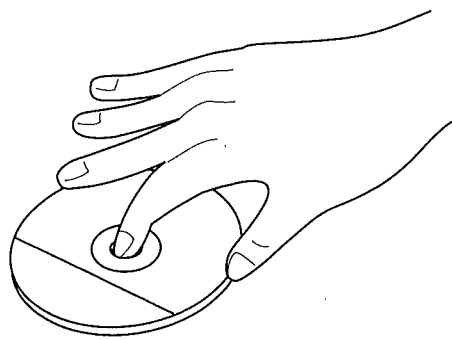
冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるコンパクトディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

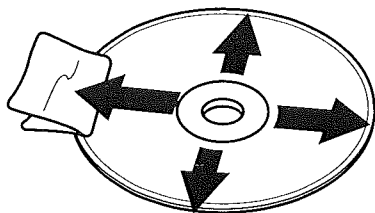
ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。

ディスクのセットは必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

※CD（コンパクトディスク）は、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、コンパクトディスクプレーヤーは、レーザー光線のスタイラスでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがって従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか中央の穴と端をはさんで持ってください。

ディスクの表面はいつもきれいに

コンパクトディスクの表面には最大60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずコンパクトディスク専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。

※コンパクトディスクはプラスティック製です。従来のアナログディスク用クリーナーや帯電防止剤。ベンジン、シンナーなどの揮発製の薬品を使用すると、コンパクトディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

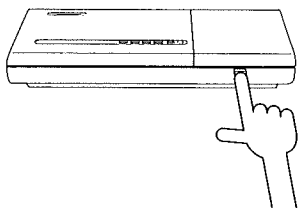
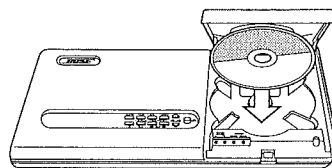
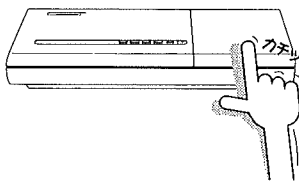
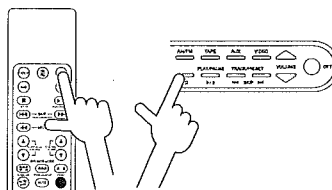
コンパクトディスクの保管上の注意

コンパクトディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするために次のような場所に置くことはさけてください。

- ●直射日光のあたる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●車の中など高温になる場所。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。

コンパクトディスクを聴く

◆CDプレーヤーの操作◆

a.ミュージックセンターのフロントエッジのCDカバーラッチを押して、蓋を開けます。

b.ミュージックセンターにCDをレーベル側を上にしてセットします。

c.蓋を閉じるときは、ラッチがカチッというまで、CDカバーを押し下げます。

d.リモコンあるいはミュージックセンターのCDキーを押します。

e.システムは、STEREO（2スピーカー）モードで再生を始めます。スピーカーモードは、リモコンの (3スピーカーモード)あるいは (5スピーカーモード)のキーを押すことによってSTEREO+CENTER（3スピーカー)あるいはSURROUND(5スピーカー)に切り換えることができます。

- 停止あるいは一時停止しているCDを再生するには、▶/❚❚（プレイ／一時停止）キーを押します。
- CDを一時停止させるには、▶/❚❚（プレイ／一時停止）キーを押します。
- CDを停止させるには、ミュージックセンターの ▶/❚❚（プレイ／一時停止）キーを2秒以上押し続けるか、リモコンの ■ STOPキーを押します。
- 曲をスキップするには、▶▶|（前方スキップ）キーを押して、次の曲に移るか、あるいは |◀◀（後方スキップ）キーを押して、現在あるいは前の曲の始めに移動します。
- 曲の中を移動するには、リモコンの ▶▶（前方サーチ）キーを押して、前方に移動したり、◀◀（後方サーチ）キーを押して後方に移動します。※このキーはリモコンにしかありません。
- CDを曲順不同で再生（ランダム再生）するには、ミュージックセンターの、▶▶|（前方スキップ）および |◀◀（後方スキップ）のキーを同時に押します。ランダム再生を解除するには、この操作をもう一度行ないます。

 注意 レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

 注意 ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

ラジオを聴く

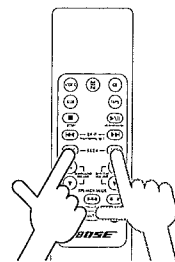
◆LS-6システムのオンとラジオの選択◆

リモコンあるいはミュージックセンターのAM/FMキーを押して、システムの電源を入れると、最後に聴いたラジオの放送局が選ばれます。システムは、STEREO（2スピーカー）モードでオンします。お好みに応じて、他のスピーカーモードを選んでお楽しみください。

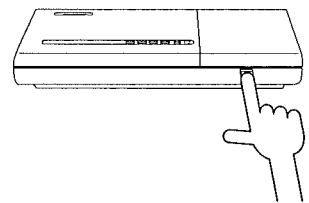
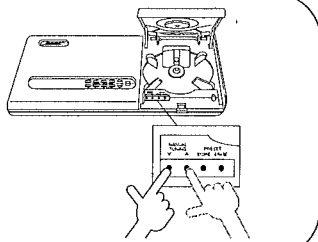
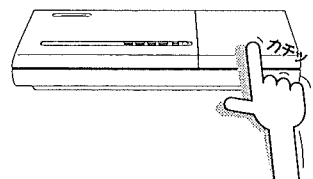
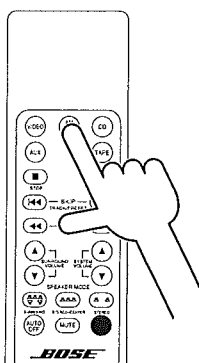
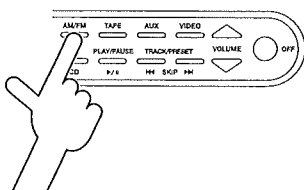
注：LS-6システムの電源を入れて、ラジオをすでにお聴きになっている場合には、AM/FMキーで、AMとFMを切り換えできます。

チューニング（放送局の選局）

◆放送局の自動選局◆

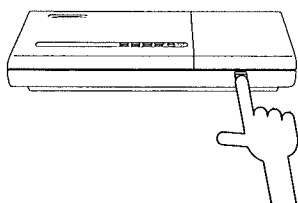
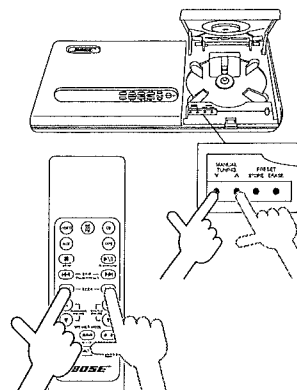
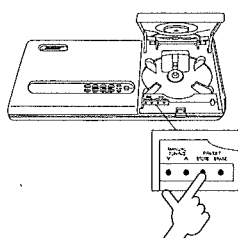
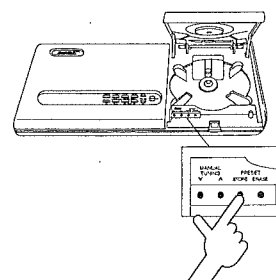
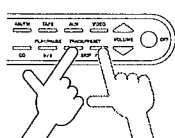
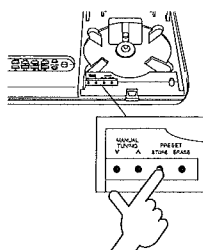
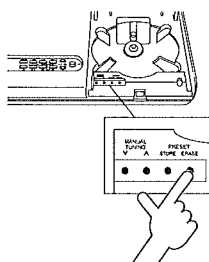
・リモコンの ▶▶（前方サーチ）あるいは ◀◀（後方サーチ）のキーを一旦押してから放すと自動選局を行ないます。これらのキーを押し続けていると、ラジオは、どの放送局にも止まらずにサーチを続けます。
・ある方向でのサーチを止めるには、一瞬、反対方向のキーを押します。

◆手動で選局する◆

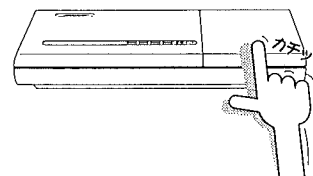
ラジオが自動選局できない電波の弱い放送局を選曲したい場合には、CDカバーの下にある MANUAL TUNING ∨ ∧ キーを使ってください。

1.ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2.∨（下）あるいは∧（上）のキーを押して、低いあるいは、高い周波数の放送局をさがします。

3.CDカバーラッチがカチッというまでCDカバーを抑えて、蓋を閉じます。

◆AMとFMとの切り換え◆

AMとFMを切り換えるには、AM/FMキーを押します。

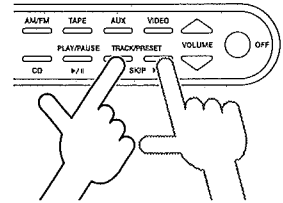
◆放送局の登録◆

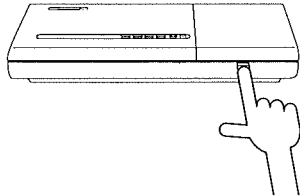
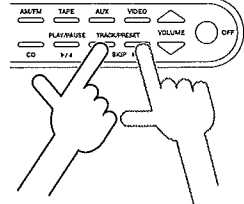
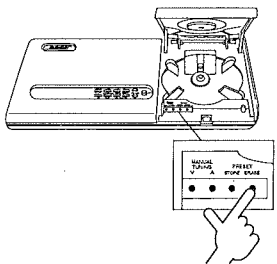
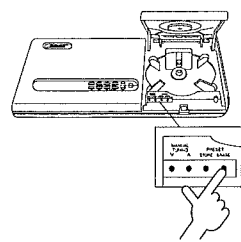
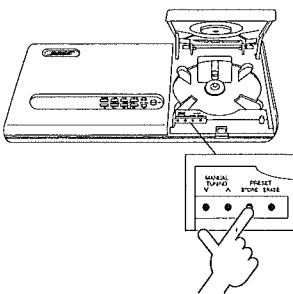
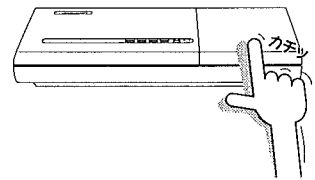
LS-6システムのミュージックセンターには、AMおよびFMの放送局をあわせて最高20局までメモリーできます。

1.ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2.手動で選局するか、あるいは自動選局で登録したい放送局を選びます。

3.STOREキーを押します。表示部に、登録可能なメモリーの番号が点滅し始めます。

4.もう一度STOREキーを押します。これで、選んだ放送局が、点滅している番号にメモリーされます。表示部の番号は、点滅しなくなり、登録された番号が表示されます。

5.放送局を今表示されている登録可能なメモリー番号と違う番号のメモリーに登録したい場合は、

|◀◀（前方スキップ）あるいは▶▶|（後方スキップ）のキーを押して、違う登録可能な番号を選びます。

次にSTOREキーを押します。

※放送局のメモリー作業を中止にするには、ERASEキーを押します。表示部の番号が、点滅しなくなり、登録可能なメモリー番号を表示しなくなります。

6.CDカバーを閉じます。

注：すでに使用されている番号には、すでに登録してある放送局を削除しない限り、別の放送局はメモリーできません（「登録放送局の削除」P26参照）。20局を超える放送局をメモリーしようとした場合には、表示部に、「－－」という表示が点滅し、登録できません。

◆登録放送局の選択◆

放送局登録したら、▶▶|（前方スキップ）あるいは|◀◀（後方スキップ）のキーを押して、前あるいは次の登録している放送局を選びます。

◆登録放送局の削除◆

1.ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2.▶▶|（前方スキップあるいは|◀◀（後方スキップ）のキーを使って、削除したい登録してある放送局を選びます。

3. ERASEキーを押します。表示部には、登録してある番号を点滅させ、その登録放送局の削除を始めることを表示します。

4. もう一度ERASEキーを押します。表示部の番号は、点滅しなくなり、番号が消灯します。

5. この放送局を削除したくない場合には、STOREキーを押して、削除の作業を無効にします。表示部は、点滅しなくなり、登録済みの番号を表示します。

6.CDカバーを閉じます。

外部の機器を聴く

接続してある外部の機器が動作していて、テープ、ビデオテープ、LDなどが再生されていることを確認してください。

注：LS-6システムは、接続されている外部の機器のON/OFFはできません。

◆システムのオンとコンポーネントの選択◆

リモコンあるいはミュージックセンターのTAPE、AUXあるいはVIDEOのキーを押して、LS-6システムの電源を入れて、その入力端子に接続されている外部の機器を選びます。すでにシステムの電源が入っている場合には、TAPE、AUXあるいはVIDEOのキーのいずれかひとつを押して、外部の機器を選びます。TAPEあるいはAUXのキーを押すと、STEREO（2スピーカー）モードでプレイが始まります。VIDEOキーを押すと、SURROUND（5スピーカー）モードで始まります。お好みに応じて、他のスピーカーモードを選ぶこともできます。
システムの電源を入れて外部機器を選択した時点で、表示部に対応するインジケータが点灯します。

◆ビデオの音声を聴く◆

●ビデオデッキなどの電源を入れます。

TV、ビデオデッキ、LDなどの電源を入れます。ビデオデッキ、LDに、テープあるいはディスクをセットします。

注意 ビデオデッキには、音声がモノラル方式のものと、ステレオ方式のものがあります。モノラル方式のビデオデッキをご使用の場合、どのスピーカーモードでもサラウンドスピーカーから音声はでません。また、モノラルで録音されていたり、二か国語録音の場合サラウンドスピーカーから正しい音声が再生されませんのでご注意ください。

◆ヘッドホンで楽しむとき◆

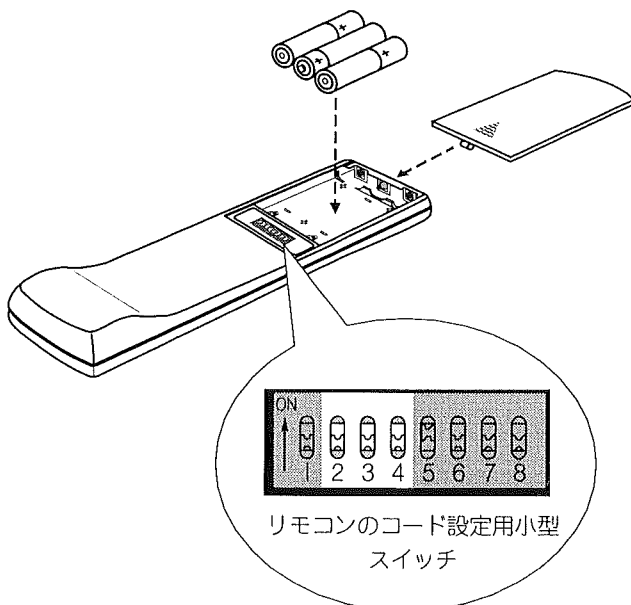
ヘッドホンで音楽を聴くには、ミュージックセンターの左側のステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。

注意 ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意下さい。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

リモコン小型スイッチの設定について

◆リモコンのコード設定のしかた◆

LS-6システムのリモートコントロールは、リモコン側で決めたコードをミュージックセンターに登録させて使用します。近くに同種のリモコンを使用していて、誤動作を起こす場合、そのリモコンのコードを違うコードにすることでトラブルを解消することができます。さらに、新たにリモコンを追加購入なさった場合には、新しいリモコンのコードを今まで使用していたものと同じものに設定し直してください。

1. リモコン電池の蓋を開けます。
2. 小型スイッチ（下図）の位置を確認します。スイッチ2、3、4 のON,OFFの組み合わせがコードになります。出荷時はすべてOFFになっています（注：ここでは、他のスイッチの位置は変えないでください）。
3. リモコンの電池の蓋を元に戻します。
4. ミュージックセンターのOFFキーを押します。
5. CDカバーを開けます。
6. STOREキーを押します。表示部は、「ーー」という表示を点滅させ始めます。
7. 表示部が点滅している2秒間の間に、リモコンの任意のキーを押します。表示部は、点滅しなくなり、瞬間的に「ーー」という表示を出して、コードが確認されたことを示します。システムはオフのままとなります。
8. 追加のリモコンを複数お持ちの場合には、各々のリモコンの電池の蓋を開けて、第1のリモコンのスイッチと合うようにすべてのスイッチに変更を加えます。なお、ステップ4から7は繰り返す必要はありません。

リモコンのコード設定用小型スイッチ

LS-6システムの音響調整

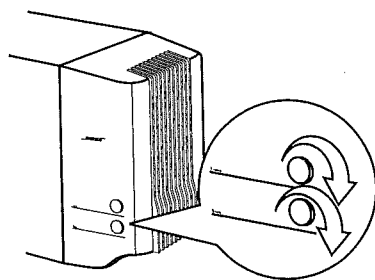
◆テストCDの使い方◆

付属のテストCDを使って結線のチェックとフロント側とサラウンド側スピーカーの音量のバランス調整を行います。

テストCDを再生するとチェックや調整の方法が聞こえてきます。指示に従って作業を行ってください。

◆システムの微調整◆

ベースモジュールのアンプ部には、ボーズの特許のP.A.P.回路を搭載し、どんな音量の時でも自然な音のバランスが得られます。さらにリスニングルームの音響特性に合わせて高域と低域を調整するためのルームコンペンセーターも装備しています。

LS-6システムのルームコンペンセイターは、ベースモジュールにあります。この調整つまみによって、トレブル（高域）とバス（低域）を調節することができます。通常の設定では、各つまみの位置は、12時の位置になっています。また、このつまみは、センタークリックがついていますので、ちょうど中央の位置にくるとカチッという感覚が得られるようになっています。つまみを時計の針の回転方向に回すと、高域（TREBLE）あるいは低域（BASS）の量が増加し、反対に回すと減少します。

◆室内音響に合わせて調整◆

部屋の音響効果（音質）は、スピーカーシステムの全体的な音質に影響を与えることがあります。ルームコンペンセイター機能を上手に使って、よりよい音響効果が得られるように調整してください。

●高域成分の調整

装飾家具、敷き詰めタイプのカーペット、重量のあるカーテンのようなサウンドを吸収する家具などを備えた部屋は、システムの高域成分が低減することがあります。スピーカーを柔らかい家具から離すと、高域の量が増加します。また、トレブル（TREBLE）つまみを時計回りの方向に回して、高域成分を増やすこともできます。

また、床や壁がむき出しであるなど、音を吸収する家具などがあまりにも少なすぎる部屋では、高域成分が多くなります。その場合は、トレブル（TREBLE）つまみを反時計回りに回すと、高域を減少させることができます。

●低域成分の調整

バス（BASS）つまみを反時計回りに回すことによって、低域成分を減少させることができます。低域成分を増やすには、バス（BASS）つまみを時計回りの方向に回してください。

LS-6システムのお手入れについて

LS-6システムを、クリーニングするときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコール、アンモニアあるいは研磨剤を含んだクリーニング溶液、その他化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。製品の内部に霧状の薬剤が入り込み、内部の部品を損傷させたりする危険があります。

故障かな？と思ったら

問　題	対　　　　応
システムが全く機能しない	・電源コネクターがミュージックセンターに確実に差し込まれており、ベースモジュールの電源コードがベースモジュールに確実に差し込まれており、ACパワーパックと電源コードが確実にACコンセントに差し込まれていることを確認する。 ・音源（CD、AM/FMなど）の選択が行われていることを確認する。 ・ミュージックセンターのACパワーパックのプラグを一旦引き抜いて5分以上たってからもう一度差し込む。これによって、ミュージックセンターがリセットできる。
音声が全く出ない	・ミュージックセンター・ベースモジュール接続ケーブルがミュージックセンターのFIXED端子に接続されており、DINコネクタがベースモジュールのジャックにしっかりとはまっていることを確認する。 ・ミュージックセンターの電源をACコンセントから抜き5分以上たってから、もう一度電源を入れ直ししてしてみる。 ・外部の機器との接続をチェックする。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認する。 ・スピーカーとの接続をチェックする。 ・CDは、レーベル側を上に向けて、ミュージックセンターに正しくセットされ、蓋が閉じられていることを確認する。 ・ボリュームを上げる。 ・表示部にMUTEという表示が点灯している場合は、リモコンのMUTE ボタンを押しミュートを解除する。 ・FMとAMのアンテナを接続する。
センタースピーカーから音声が出ない	・センタースピーカー用ケーブルの両端が接続されていることを確認する。 ・STEREO+CENTER（3スピーカー）モードあるいはSURROUND（5スピーカー）モードを選択する。
センタースピーカーからの音声が大きすぎる	・STEREO+CENTER（3スピーカー）モードで、SURROUND VOLUME ▼キーを押す。 ・10秒間、STEREO+CENTER（3スピーカー）モードキーを押して、初期設定の音量にもどす。
サラウンドスピーカーから音声が出ない	・SURROUND（5スピーカー）モードを選択する。 ・SURROUND VOLUME ▲キーを押す。 ・ビデオ音源がステレオであり、サラウンド録音されており、使用している機器（TV、ビデオデッキ、LD）がステレオであることを確認する。
サラウンドスピーカーの音量が大きすぎる	・SURROUNDモードで、SURROUND VOLUME ▼キーを押す。 ・左右のフロントスピーカーがフロント・スピーカー・ジャックに接続されており、左右のサラウンドスピーカーがサラウンドスピーカー・ジャックに接続されていることを確認する。 ・10秒間、SURROUND（5スピーカー）モードキーを押して、ボリューム設定を初期設定の音量にもどす。

問　題	対　　　　　　　　応
リモコンが正しく働かない､あるいはまったく働かない	・電池およびその極性（⊕と⊖）をチェックする。 ・リモコンをミュージックセンターに近づけて操作する。 ・27ページのステップ4から7を実行して、リモコンのコードを登録し直す。 ・ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルが束ねられたり、丸まっていないかチェックする（11ページ）。
システムが自然にオン／オフする、あるいは異常な動作をする	・他のLS-システムのリモコンの信号と混信を起こさないように、リモコンのコード設定を変える。27ページのコード設定についての項を参照。
CDが演奏できない	・ミュージックセンターのCDカバーが閉じているのを確認する。 ・表示部のプレイ記号 ▶ が点灯しているかチェックする。 ・CDキーを押して、数秒間待ってからPLAYキーを押す。 ・レーベル側を上にしてミュージックセンターにセットされているかを確認する。 ・ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 ・レーザピックアップあるいはCDに塵やゴミが付いている可能性がある。市販のクリーニングキットを使ってみる。
ラジオが動作しない	・アンテナが正しく接続されていることを確認する。 ・アンテナの位置を調節して、受信状態を改善する。 ・信号が弱い地域の可能性がある
FMサウンドが歪んでいる	・アンテナの位置や向きを調節してみる。
サウンドが歪んでいる	・スピーカーケーブルが痛んでいたり傷ついていないことと、接続がしっかりとしていることを確認する。 ・ミュージックセンターに接続されている外部機器の出力レベルを下げる。
ボリュームの反応が過敏	・ミュージックセンターベースモジュール接続ケーブルが､ミュージックセンターの、SPEAKERS A あるいは B ではなく､間違いなくFIXED端子に接続されているかチェックする。
テープ、CD、ビデオデッキなどの音声が出ない	・接続をチェックする。 ・外部機器の取扱説明書を参照する。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズ株式会社、修理担当部門までご連絡ください。

☎　042-357-5250

付録（SPEAKERS A,Bの使い方）

◆付属のSPEAKERS A, B出力端子について◆

将来的にシステムを発展させる外部スピーカー用拡張端子です。現時点ではこの端子を使用することはできません。

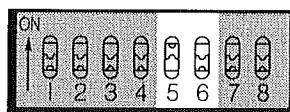
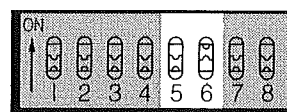
●スピーカー出力端子（SPEAKERS）Aにアンプ内蔵スピーカーを接続して使用する場合

・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音声は、LS-6 システムの ON/OFF に連動します。
・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音声は、LS-6 システムの 音量の上下、ミュートのON/OFF に連動します。
・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量と、LS-6 システムの音量は同じになっていません。
※LS-6 システムの音量とスピーカー出力端子（SPEAKERS）Aに接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量のバランスをとる場合は、ミュージックセンターの音量▼キーを15秒以上押してください。
・リモコンの初期設定は、スピーカー出力端子（SPEAKERS）Aをコントロールするように設定されています。

●スピーカー出力端子（SPEAKERS）Bにアンプ内蔵スピーカーを接続して使用する場合

・新たにリモコンが必要になります。さらに、新しいリモコンの設定をスピーカー出力端子（SPEAKERS）Bの信号をコントロールできるように設定し直す必要があります。
・スピーカー出力端子（SPEAKERS）Bからの信号は、LS-6 システムの ON/OFF に連動していません。独立して音量の上下はできますが、LS-6 システムの音量の上下に連動しています（LS-6 システムの音量と、SPEAKERS Bの音量バランスが変えられます）、また、ミュートのON/OFFをコントロールすることができます。ただし、ミュージックセンターの音量▲キーを押すとミュートは解除されます。
※LS-6 システムの音量とスピーカー出力端子（SPEAKERS）Bに接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量のバランスをとる場合は、ミュージックセンターの音量▼キーを15秒以上押してください。

●リモコンの設定について

スピーカー出力端子（SPEAKERS）Bを使うために設定をします。
a.27ページを参照して、リモコンの電池カバーをはずします。
b.初期設定は、小型スイッチの5がON、6がOFFになっています（SPEAKERS A 用の設定）。
c.SPEAKERS B を使用するために5をOFF、6をONにします。
d.リモコンの電波のコードが、LS-6システム用のものと同じことを確認します（小型スイッチ2、3、4のON/OFFの組み合わせが同じになっていること）。
e.リモコンの電池カバーを元に戻します。

SPEAKERS A用の設定

SPEAKERS B用の設定

仕　様

〈ACパワーパック部電力定格〉

電源電圧	AC100 V - 50/60 Hz、20VA

〈スピーカー部〉

サテライトスピーカー	5.7cmドライバー×5（防磁型）
ベースモジュール	13.3cmドライバー×2（非防磁型）

〈ミュージックセンター出力〉

可変出力端子	SPEAKERS AおよびB（使用しません）
固定出力端子	FIXED OUTPUTS、TAPE
ヘッドホン	最低インピーダンス32Ω
SYSTEM CONTROL 信号出力端子	ベースモジュール部への信号を出力
出力インピーダンス	SPEAKERS A ,B : 600Ω TAPE REC : 1kΩ

〈ベースモジュール部定格出力〉

L/C/R出力	25W×3
サラウンド出力	50W
ベース出力	40W

寸法

ミュージックセンター	38.1（W）x 6.4（H）x 19.8（D）
サテライトスピーカー	7.8（W）x 8.0（H）x 12.3（D）/1個
ベースモジュール	59.0（W）x 35.5（H）x 19.0（D）

単位… cm

重量

ミュージックセンター	1.7kg
サテライトスピーカー	0.46kg×5
ベースモジュール	15.0kg

〈ベースモジュール部電力定格〉

電源電圧	AC100 V - 50/60 Hz、200 W

〈ミュージックセンター入力〉

入力端子	TAPE , AUX , VIDEO SOUND
入力インピーダンス	TAPE : 100kΩ AUX , VIDEO SOUND : 5kΩ
FMアンテナ	75Ω
AMアンテナ	12 μH
電源入力	12 V(AC)、1.0 A

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社

〒150　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷YTビル　TEL03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1053
95・12-0.5K-B・2(I-M)